

インド会社員、12.9%賃上げ 農村は無縁

【ニューデリー＝庄司将晃】会社勤めのインド人の賃金は今年、前年より12.9%上がり、賃上げ率はアジア太平洋地域の主要国で最も高くなる――。米人事コンサルタント会社、エーオンヒューイットがこんな調査結果を発表した。2ケタ近いインフレ率に苦しむインドだが、経済成長を支える勤め人の消費に急ブレーキがかかる可能性は低そうだ。

調査対象は約530社。エンジニアリング、自動車、情報技術（IT）といった幅広い業種で働き手を増やす企業が目立ち、賃金水準の上昇につながっているという。

各国での調査時期が異なるため単純に比べられないが、中国（9%）などを上回る見通した。インドではリーマン・ショック前の2007年に、賃上げ率が15.5%を記録。世界同時不況のあおりで09年に6.6%まで落ち込んだが、昨年は11.7%に回復した。

ただ、インドの11億人余りの総人口のうち半数以上は、企業の賃上げによる恩恵とは無縁の農業者。経済専門家の間では、貧困層へのインフレ対策の補助金支出などによる財政赤字が高成長の足かせになるおそれがある、という見方もくすぶる。